

# 教授 神田 直弥 (Naoya Kanda)

## 研究シーズ

【環境・交通】 【防災・くらし】

## 専門

交通心理学/人間工学

## 研究キーワード

交通安全教育/ヒューマンエラーの分析と対策/  
自転車・電動キックボード/公共交通利用促進



## 研究テーマ

ヒューマンエラーの発生過程解明に基づく  
予防型交通安全設計と行動変容支援に関する研究

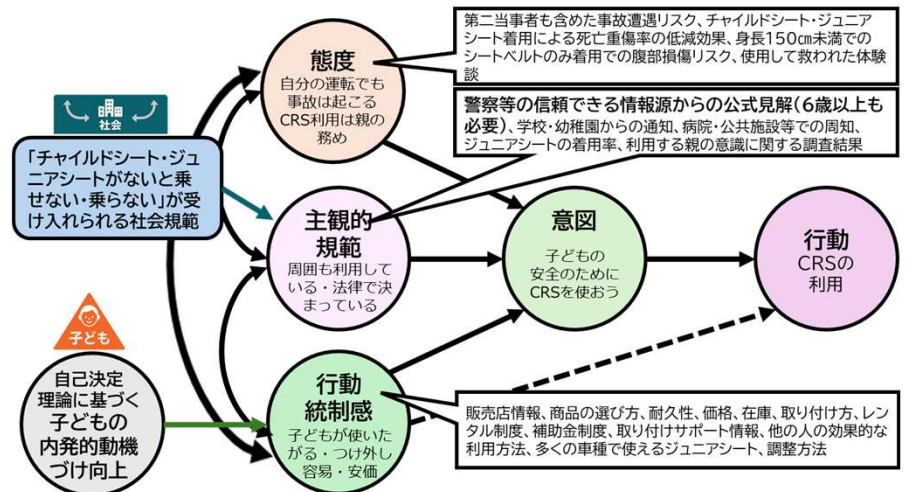
## 研究の概要

道路交通における人間の認知特性・判断過程・行動特性を実証的に解明し、その知見を安全対策および教育介入へと接続することを目的として研究を行っています。特に、自転車をはじめとする身近な個人移動手段に関心を持ち、自転車運転時の注視行動や携帯電話使用の影響、レインコート着用時の確認行動、無信号交差点への進入行動など、交通参加者の具体的行動を対象とした実験的研究を基盤としてきました。

近年は、電動キックボード運転時のブレーキ反応時間や歩行者とのすれ違い時における離隔距離の検討など、新たなモビリティにも対象を広げています。さらに、高齢ドライバーの補償運転や目標設定が行動変容に及ぼす効果、免許返納後の移動手段の選択など、ライフステージに応じた行動変容の課題研究に取り組んでいます。加えて、メタ認知やコーチングを活用した中学生向け交通安全教

育プログラムの開発を通じて、単なる知識伝達にとどまらず、持続的な行動変容を促す教育モデルの構築を進めています。

これら一連の研究を通して、事故発生後の対処ではなく、ヒューマンエラーの発生過程を理解し、行動が生じる前段階で環境・教育・制度を設計する「予防的アプローチ」に取り組んでいます。



## セールスポイント

計画的行動理論に基づく統合的情報発信モデル (学童用シート利用促進)

交通心理学と人間工学の専門知識を基盤に、人間の認知特性・行動特性に根差した交通安全対策と教育プログラムの設計に取り組んでいます。単なる啓発にとどまらず、「人はなぜ失敗するのか」「どうすれば行動が変わるのか」という心理学的メカニズムを解明し、ヒューマンエラー分析に基づく実装可能な対策へと具体化している点が特長です。理論的裏付けと現場適用性を両立させることで、持続的な行動変容と事故予防を実現する実践的研究を展開しています。

## 想定される用途・応用例・活用例

- ・中高生向け交通安全教育教材開発
- ・行動変容を促すワークショップ設計
- ・電動キックボード導入時の安全指針策定
- ・公共交通利用促進のための教育プログラム設計
- ・ヒューマンエラー分析に基づく交通事故防止対策の提案